

第70回大腸癌研究会
大腸鋸歯状病変の組織学的分類と癌化のポテンシャルに関する研究
議事要旨

自治医科大学さいたま医療センター外科 小西文雄
順天堂大学医学部人体病理病態学 八尾隆史

第2回委員会

日時： 2009年1月15日（木）13：00－14：00

場所： 都市センターホテル6F 608号室

プロジェクト研究メンバー

病理グループ：八尾隆史、味岡洋一、岩下明德、藤盛孝博、菅井有、
九島亮治、三富弘之、野首光弘

内視鏡-外科グループ：工藤進英、田中信治、鶴田 修、松本主之、小西文雄、
松原長秀、杉原健一、富樫一智

分子生物グループ：菅井有、松原長秀、味岡洋一、杉原健一

研究内容と進捗状況

今回の委員会で以下の報告と今後の方向性が討議された。

(1) 大腸鋸歯状病変の病理組織学的分類。本研究の第一段階として参加施設において集積された症例をretrospectiveに検討して大腸鋸歯状病変の組織分類を確立することを目指している。文献報告におけるSSA/SSPの特徴を有すると判断される病変とHyperplastic polypと判断される10病変の組織写真をblindにて5名の病理医に送付した。具体的には、①腺管底部の上皮の鋸歯状変化、②表層上皮の絨毛状変化、③腺管分岐の増加、④腺管の水平方向への変形、⑤拡張腺管、⑥腺管上皮の核偽重層 / abnormal proliferationの6所見について5段階にgradingしてその結果を分析した。個々の所見のgradingについては、病理医の間で差を認めた病変もあったが、SSA/SSPとhyperplastic polypの診断については、5名の間での一致率は比較的良好であった。今後、①から⑥の所見を重視して、さらに、SSA/SSPの病理所見について検討を進め、SSA/SSPの病理組織学的特徴および病理所見の多様性を明確にする方針となった。

(2)症例の集積

SSA/SSP/AHPの病理組織学的基準を検討する作業と同時進行で、各施設で**SSA/SSP/AHP** の範疇にはいると思われる病変をリストアップする方針で、年齢、性、形態、大きさ、部位、大腸癌その他の病変との合併、など臨床病理学的所見につき、各施設にリスト記入用フォーマットを作製して送付し、病変のリストアップを行う。このリストを基に、病理プレパラートを集めて5名の病理医が検鏡して①から⑥の所見診断を行う。この際、プレパラートを移送する手間を簡略化するため、**virtual slide**に取り込んで、**DVD**ディスクなどに記録して病理医に送付することを考慮する。症例記入用フォーマットは、2009年2月12日の時点で、ほぼ完成している。委員に送付して、1ヶ月以内に症例リストを提出していただく予定である。

(3)癌化のポテンシャルに関する検討

病理組織学的に**SSA/SSP/AHP** と判定された各施設の症例につき、腫瘍性異程度、病変内癌の存在の有無（粘膜内か粘膜下層浸潤か？）、大腸癌合併の有無（同時性、異時性）などについて検討する。同時に、右側早期大腸癌の中に**seriation**の所見が認められる症例がどの程度存在するかを検索するために、一定期間(5年)内に参加各施設で経験した右側大腸早期癌を組織学的に検索する。

(4) 分子生物学的検討

病理組織学的に **SSA/SSP/AHP** と判定された各施設の症例のうち、**MSI, CIMP, methylation of MLH1, BRAF mutatoin, KRAS mutation** などの検索が既に施行されている症例につき、その結果を分析する。比較検討の対照として、右側早期癌、進行癌 における遺伝子学的変化についての分析結果も検討する。

また、大腸癌研究会の倫理委員会提出書類を早急に準備して提出する方針が討議された。